

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(9月3日～9月9日)

2019年9月10日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領、金・アジアインフラ投資銀行(AIIB)頭取と会談(9/5)

●ルマス・ベラルーシ首相、メドヴェージェフ露首相と会談(9/6)

●経済発展のための閣僚会議開催(9/4)

大統領動静

●金・アジアインフラ投資銀行(AIIB)頭取との会談(9/5)

ルカシェンコ大統領の発言内容は以下の通り。

・我々は、AIIBとの関係において新しいページを開く。我々は、他の国の模範例となるべく関係を構築する用意がある。

・ベラルーシは欧州の中心であり、中継国である。我々にとって、インフラ分野の発展、とりわけ道路整備が非常に大事である。

・アジア太平洋地域、中国、東ヨーロッパの関係発展という文脈において、ベラルーシは非常に重要な拠点である。乗用車道、鉄道等の貿易路としての素地は既に形成されている。したがって、ベラルーシに対する貴方の関心はあるべきものであろう。欧州からの資金、世銀からの資金が沢山あり、これらは、道路網の整備に投入されている。とりわけ、ウクライナやバルト諸国での状況を鑑みるに、ベラルーシは非常に必要とされている国である。

・貴頭取が都市計画やエネルギーを中心に取り組んでいることを知っている。ベラルーシも正にそれらを欲している。ぜひ参加頂きたい。

・特に、レペリー-ポロツク間、ゴメリ-ブレスト間の道路建設を直近数年で行うことを希望している。

・また、中国・ベラルーシ共同産業特区「巨石」への投資を検討していることも知っている。エネルギー、排水、住宅回収案件等が有望ではなかろうか。問題は山積みであり、今日解決できねば、明日解決する必要がある。ぜひ我々を支援頂きたい。

金頭取の発言は以下の通り。

・ルカシェンコ大統領と面会することができ非常に嬉

しい。

・我々は、ベラルーシのAIIBへの参画は、ルカシェンコ大統領の個人的な功績であると認識しており、非常に感謝している。

・2日間の滞在において各種大臣や財界の方々と面談をしたが、各人が国家の発展に献身していることに感動した。

(9/5 大統領府公式サイト)

●経済発展のための閣僚会議開催(9/4)

同会議では、経済発展、輸出の多角化、ロシアとの協力発展について協議が行われた。

ルカシェンコ大統領の発言内容は以下の通り。

・毎年第4四半期は、未来における国の発展のための計画について練る。

・今年、来年と、議会選挙、大統領選挙が続く。我々は試験を受ける。

・ベラルーシ製品の輸出において新規市場開拓が必要となる。現状の収益を維持した形で、市場を多角化することが最大の課題である。我々はそれに向けて動いているが、非常に遅い。

・ロシア市場は、ベラルーシ製品の主要市場であることは変わらない。対露依存度は非常に高い。ロシアと協力、統合の枠組みにおける今後の活動計画の最終提案の作成は喫緊の問題である。それらは本日ここで協議する必要がある。

・現在、農業を注目しているが、どの業界も見逃さない。全ての分野における計画の遂行が課題である。

(9/4 大統領府公式サイト)

●ヴォロンコフ国連事務次長と会談

ルカシェンコ大統領の発言は以下の通り。

・ミンスクにおいて開催されたテロ対策国際フォーラムの調整に関し、大変感謝する。本フォーラムに関し、インターネットやマスコミに色々な意見があるが、ネガティブなものは実際に無い。

・国連の主催ということ、また国連事務次長にお越し頂いたことは、このフォーラムに意義を与え、イメージを改良させ、さらに開催国であるベラルーシの重要性を高めた。

・ベラルーシは今後もテロ対策に貢献し続ける。

ヴォロンコフ国連事務次長の発言は以下の通り。

・大統領との会談の場所に2度もいられることは非常に嬉しい。

・昨日の大統領演説は、テロとの戦いにおいて国際社会が一丸となって協力する必要があるというシグナルを送った。

・テロリストによるハイテク技術やインターネットの使用に反対するということは、今後さらに決定的になっていく。

(9/4 大統領府公式サイト)

●グレミンガー 欧州安全保障協力機構(OSCE)事務総長と会談

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・ミンスクにて、テロ対策国際フォーラムの開催を支持してくれて、またベラルーシが同様の国際フォーラムを開催できると信用してくれて大変ありがたい。

・ベラルーシは、地域安全という文脈において、OSCE等の国際的組織からの信用水準に答えるように精進する。

・ベラルーシと欧州安全保障協力機構は、既に高水準の協力をしており、良い伝統が形成された。OSCEからの、ベラルーシの欧州大陸における安全のための役割への評価に感謝する。

グレミンガー事務総長の発言要旨は以下の通り。

・ミンスク訪問の機会を頂き、大変ありがたい。ここ13～14ヶ月で既に4回目の訪問となる。

・ウクライナ問題における調停プロセスへの参画など、ルカシェンコ大統領の世界相互安全協力への積極的

な参加に対し感謝したい。

(9/4 大統領府公式サイト)

●テロ対策国際フォーラム(9/3-9/4)に参加

同フォーラム開会にあたり、ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・本フォーラムはテロに対する革新的な対策に重きを置いている。このテーマは、各国家の安全保障において非常に重要である。

・テロを終わらすことはできる。ただし、今日でもなく、明日でもなく、すぐにではない。テロを終わらすには一つ条件がある。それは、我々が欲することである。

・テロは国境を知らない。テロの被害者になるのは一般市民である。テロで使われる技術は、世界におけるICT分野の発展に伴い日々進化している。

・テロは、どんなに強国であろうと一国では解決できない問題である。広範囲な国際的な対話を始め、各国が力を合わせる時が来た。国連がここで大きな役割を果たすのは言うまでも無い。

・ウクライナの紛争については、私個人としても、ウクライナの隣国のトップとしても、胸の痛む問題である。

私はそこで何が起きていて、何が原因となっているが知っていたので、この問題に関わりたくなかった。以前にベラルーシは、この紛争解決のために実施されるべき具体的な措置の計画を準備し、提案した。その負担の多くはベラルーシが担うものであり、もしあなた方(当館注:欧州連合)がこの計画を拒否するのであれば、欧州はこの紛争を中止して欲しくないのだと私は考えるであろうと付言した。しかし、欧州はこの計画を拒否した。そしてドンバス、クリミア半島のために戦いが始まり、ノルマンディー会議が始まり、ベラルーシにおいても開催された。5年経った今も、解決されていない。それは、誰かにとってこの紛争が必要なためである。同紛争が発生した時、ベラルーシ国内で「なぜ他者の紛争に足を突っ込むのか」という趣旨の批判があった。それは第一に、我々の同胞が正面衝突しているため、第二に、我々の隣で起きているため、である。ベラルーシはウクライナからの難民を受け入れた。しかし、一番怖いことは、兄弟や友人(ウク

ライナ)との国境を封じざるを得なかったことである。
NATOとの国境以上に強く封じている。武器の流通が始まったためである。

(9/3 大統領公式ホームページ)

内政

●ベラルーシ、児童の糖尿病疾患率が毎年4～5%上昇

保健省は、ベラルーシにおいて、2014年時点の糖尿病疾患児童数が1688人だったのに対し、現在は2300名を超える、と公表した。同病気患者数増加は、世界的に見られており、ベラルーシが例外であるわけではないと補足。

(9/4 ベラパン通信)

外交

●ルマス・ベラルーシ首相、メドヴェージェフ露首相と会談(9/6)

両者は、連合国家実現に向けたロードマップ準備作業の完了を確認した。

会談後の記者会見におけるメドヴェージェフ露首相の発言要旨は以下の通り。

- ・現在、仮調印の書類となっているのが、今回の仕事の結果である。しかし、これだけで終わらない。これは始まりであり、今後非常に困難な問題が先にある。
- ・双方は、今後、経済分野、財務・債権分野、税務分野、税関問題、デジタル発展分野、観光業、全ての分野における具体的な行事や標準的な規約の一覧をこのロードマップに落とし込む必要がある。
- ・ベラルーシの同僚にも、またロシアの同僚にも、今回の仕事に感謝したい。これから最も重要な共同作業が始まる。12月上旬に、両国大統領に提出するための最終案まで詰めていく必要がある。

会談後の記者会見におけるルマス首相の発言要旨は以下の通り。

- ・本日メドヴェージェフ露首相とともに大きな作業の第一ステップに一線を画すことができた。
- ・この先2ヶ月間で非常に大きな仕事が続いている。

12月初旬に両国大統領の署名を準備する必要がある。

・オレシュキン露経済大臣、クルトイ経済大臣に、最近数ヶ月続いたこの大きな作業について感謝したい。とはいえ、油断しないで頂きたい。残りの期間や分析必要な作業量を鑑みると、今後、非常に困難な作業が残っている。

・残り2ヶ月で両国大統領が直面している課題を解決できることに疑いはない。

(9/6 ベラパン通信)

●クラフチェンコ外務次官、スイスで開催された欧州安全のための円卓会議に出席(9/5-9/7)

(9/7 ベラパン通信)

●NATO、「ベラルーシとの対話・協力を賛成」

NATO イェンス・ストルテンベルグ事務総長がブリュッセルのプレスで「ベラルーシは NATO の隣国であり、我々にとって彼らとの対話と協力が必要である。我々は各国の主権国家としての自身の道を選ぶ権利を尊重している。北マケドニアが、30か国目の加盟準備をしている。ベラルーシと、安全、リスク最小化、透明性、武器管理等について協議をすることは非常に重要である」と発言。

(9/5 ベラパン通信)

経済

【国内経済】

●2019年1～7月、ミンスク市貿易額、3.7%減少

2019年1～7月ミンスク市貿易高は155億9240万ドルと昨年同時期対比で3.7%減であった。輸出が、64億4380万ドル、輸入が91億4860万ドルであった。

(9/4 ベラパン通信)

【対外経済】

●ベラルーシ、ロシアへのじゃがいも輸出量、半減

2019年上期のじゃがいも輸出量は77千トンと、昨年同期136千トン対比、約50%減少した。

(9/4 ベラパン通信)

●世銀、「ベラルーシ経済が財政危機までいかないことを願う」

アレックス・クレメル世銀ベラルーシ事務所長は「国営セクターの非効率な事業により、ベラルーシは非常に危うい状況にある。財政危機までに到達しないことを願う。」と発言した。さらに「ベラルーシは家族のようなものだ。稼ぐ以上に浪費してしまう。さらにその家族の半分は非生産的に働いている。これは、国営セクターのことである。第一ステップとして、長いスタグネーション、第二ステップとして、対外債務の増加、第三ステップとして、債権者との問題発生となるが、現在ベラルーシは第二ステップにいる。第三ステップへの移行のリスクを最小化することが大事である。これには、国営企業の再構築が必要となる。国営企業には、多くの人的リソースと資金が非効率に使用されている。」と補足説明した。

(9/3 ベラパン通信)

●ルマス首相、金・アジアインフラ投資銀行(AIIB)頭取と会談(9/3)

ルマス首相の発言は以下の通り。

- ・ベラルーシは、交通インフラ構築に関し、銀行セクターからの資金援助を期待している。
- ・特にレペリー・ポロツク間高速道路 P46 については準備が進んでいる。ベラルーシでは、交通インフラの拡充に注力している。交通インフラの質は悪くないものの、ベラルーシは多くの回廊の交差する箇所となっており、大きなポテンシャルを秘めている。
- ・AIIB には、ベラルーシ・中国共同産業特区「巨石」の鉄道ターミナル建設への参画を検討頂きたい。
- ・健康分野においても関心を持っており、小児がんセンターや小児科医・小児外科医センター、脊髄・細胞幹移植センターの建設のための資金誘致の可能性も協議の用意ができています。

(9/4 ベラパン通信)

●クルトイ経済大臣、金・AIIB 頭取と会談(9/3)

9月2日から5日にかけてベラルーシに訪問中の金頭取は、クルトイ経済大臣と会談。両者は、輸送コンプレックスの発展、ベラルーシ・中国共同産業特区「巨石」の拡大等に関し協議を行った。

(9/3 ベラパン通信)

(了)